

映画は観くらべるともっと面白くなる 2作品を同時にミクラべる映画上映会

バロー文化ホール

TAJIMI CITY CULTURAL HALL PRESENTS

ミクラベシネマ

8/15 (金) 小ホール 全席自由

10:30 太陽の子 (2021年/本編111分) ※開場は各上映の30分前

13:30 あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。 (2023年/本編127分)



©2021 ELEVEN ARTS STUDIOS / 「太陽の子」フィルムパートナーズ



©2023 「あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。」製作委員会

※本画像に記載されている公開日は過去のものであり、今回の上映会の日程とは異なります。公開当時の画像を使用しております。あらかじめご了承ください。



入場料 単独券 1,000円 (1作品) ペア券 1,500円 (1作品) 2作品通し券 1,500円

7:00~ チケットONLINE 9:00~ 電話予約
※初日はお1人様4枚まで。初日の窓口販売はおこないません。

お問合せ バロー文化ホール (多治見市文化会館)

☎ 0572-23-2600

〒507-0039 多治見市十九田町2-8

9:00~21:30 火曜休館・祝日を除く

バロー文化ホール



八十年の時を越えて、いま、あなたに語りかける物語。

ミクラベシネマ第4弾では、異なる視点から戦時下の青春と運命を描いた『太陽の子』と『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』の2作品を“ミクラベ”ます。

『太陽の子』は、原子物理学を研究する青年の葛藤と友情を描き、科学と戦争が交錯する現実をリアルに映し出した作品です。一方、『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』は、現代の女子高生が戦時中へとタイムスリップし、過酷な時代の中で純粋な恋と命の尊さに触れる物語です。どちらの作品も、戦争の中で懸命に生きた人々の姿を通して、私たちに平和の尊さと命の重みを静かに問いかけます。

「戦争とは何か」、「時代が違えど変わらない想いとは何か」——
異なる切り口で描かれるふたつの物語を、ぜひスクリーンでご体感ください。

太陽の子

— 未来を信じた若者たちは、科学と戦争の狭間で何を選んだのか。—

1945年、夏。

京都帝国大学で原子核の研究に打ち込む青年・石村修は、「科学の力」で戦争を終わらせるとする軍の密命のもと、仲間と共に原子爆弾の開発に取り組んでいた。

そこに現れたのは、建物疎開で家を失った幼なじみ・世津。そして戦地から一時帰還した弟・裕之。久しぶりに集った3人のささやかな日常は、戦争という現実の中で静かに、しかし確かに揺れていた。

戦地で傷ついた弟と、戦後の未来を見つめる幼なじみ。
命を守るためのはずの科学が、大きな破壊を生むかもしれないという矛盾。
それぞれの想いが交差する中、やがて訪れる“あの日”——8月6日。

絶望の中に差し込む、ひとすじの希望とは。
戦争と科学、命と未来。
重くも優しいまなざしで、戦時下の青春と選択を描く、心を打つ真実の物語。
(2021年/本編111分)



©2023「あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。」
製作委員会

あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。

— 戦火の時代で出会ったのは、未来に想いを託すたったひとつの恋だった。—

母親とぶつかり、家を飛び出した女子高生・百合が目覚めると、そこは空襲の音が鳴り響く戦時中の日本だった。戸惑いながら辿り着いた先で出会ったのは、命の危険と隣り合わせの時代を、まっすぐな瞳で生きる青年・彰。だが、彰は特攻隊員で、程なく命がけで戦地に飛ぶ運命だった——。

限られた時間の中で、伝えたい言葉、守りたい想い。互いのことを知り、未来と過去が交差する中で芽生える感情。“当たり前”の大切さを知らなかった少女が、戦争の中で知った命の重みと、愛のかたち。

時代を越えて胸に残る、涙と希望の青春ストーリー。時を超えた愛に、あなたもきっと涙する（2023年/本編127分）